

★トラック1 機械少女の姦計

ミツキ「聖結晶姫ミツキ。機械少女の淫姦」

ミツキ「さすがセキュリティレベル5の区画ね。こんなに早く見つかるとは思わなかったわ」

ミツキ「けれど、こんな玩具でこの私をどうにかできると本気で思っているのかしら？」

ミツキ「だとした舐められたものね」

ミツキ「ふふっ、遅い遅い。そんなノロマな動きでは私を捕まえるなんて不可能よ！」

ミツキ「悪いけど、玩具相手に無駄な時間を使うつもりはないの。先を急がせてもらわ」

ミツキ「っと！」

ミツキ「まったく、ポンコツばかりのくせに数だけは多いようね」

ミツキ「いったいどれだけの警備ロボットを配備しているのよ」

ミツキ「これだけ嚴重ってことは、新型アンドロイドの製造拠点という情報は間違いなようね」

ミツキ「なんとしても、奴らの目論見を阻止しなくちゃ！」

ミツキ「くっ！ 次から次へとキリがないわね」

ミツキ「あっ!? しまった、銃が!？」

ミツキ「きゃあああああああ！」

ミツキ「ガハッ！ つうぐうう……カハッ、コホッ……キツいのを、もらってしまったわね」

ミツキ「囲まれた、か……はあ、はあ、さすがに武器なしでこの数相手は厳しいわね」

ミツキ「……なら、ここからは本気を出させてもらおうかしら！」

ミツキ「いくわよ！ お願い聖結晶、私に力を貸して……チェンジ・ストラクチャー！」

ミツキ「変身完了！ 聖結晶姫ミツキ、ここに降臨！」

ミツキ「さあ、観念なさい！ この私の正義の刃であなた達を鉄くずに変えてあげるわ！」

ミツキ「ガントレット！ モードセイバー！」

ミツキ「いくわよ！ やあああああああ！」

ミツキ「ふっ、だから遅いと言っているでしょ！ そんな攻撃を続けたところで当たりはしないわ！」

ミツキ「たああああ！」

ミツキ「よし、次！ はあああああっ！」

ミツキ「他愛ないわね！ 次よ！ やあああああっ！」

ミツキ「これで……ラストよ！ つせああああああ！」

ミツキ「ふう……ひとまず付近に集まってきた分は対処できたようね」

ミツキ「とはいえ、想定よりも時間を使ってしまったわ。先を急がないと、っ！」

ミツキ「そこにいるのは誰！ 隠れても無駄よ、出てきなさい！」

1 真央「えっ……あつ、あの……ご、ごめんなさい……」
2 ミツキ「えっ？ 子供？ なんでこんなところに？」
3 真央「あ、あの……お姉さんは、怖い人達の仲間なの？」
4 真央「真央、知らない人達にここへ連れてこられて……痛いこととか、苦しいことたくさ
5 んされたの」
6 真央「こんなところ、もう居たくないって思ってたら、ビービーうるさくなって怖い人達が
7 どっか行っちゃって……チャンスだって思って逃げてきたの」
8 ミツキ「なっ!? まさか、こんな小さな子供を実験台にしていたというの……」
9 ミツキ「非道なんてもんじゃない。奴らには人の心というものがないの！」
10 真央「あの……お姉さんも、真央に酷いことするの？」
11 ミツキ「あつ、ご、ごめんなさい……わたし、怖い顔しちゃってたかしら？」
12 ミツキ「真央ちゃん、だったわね。安心して、お姉さんは悪者達をやっつけにきた正義
13 の味方よ」
14 真央「ほ、ホントに!? 真央のこと助けてくれるの！」
15 ミツキ「勿論よ。真央ちゃんのことは絶対に守ってみせる。約束するわ」
16 真央「グスッ、あ、ありがとう、お姉さん！ 怖かった……怖かったよ～～」
17 ミツキ「あっ……よしよし……そうよね、辛かったわよね……だけど、もう大丈夫」
18 ミツキ「とは言ったものの、この子を連れただまま戦闘になったら巻き込んでしまうわ。
19 まずは真央ちゃんを安全なところへ連れていくのが先決かしら？」
20 真央「あの、お姉さん……お姉さんのお名前を教えて」
21 ミツキ「そういえば、自己紹介がまだだったわね。私はミツキ……聖結晶姫ミツキよ」
22 真央「なら、ミツキお姉ちゃんって呼んでいい？」
23 ミツキ「ええ、好きに呼んでいいわよ」
24 真央「ありがとう、ミツキお姉ちゃん！」
25 真央「それでね、実は真央以外にも捕まっている子がまだ8人いるの。お願い、あの
26 子達も助けて！」
27 ミツキ「なっ!? そんなにたくさん！」
28 ミツキ「わかったわ……それで、その子達はどこにいるのかしら？」
29 真央「それだったら、真央が案内する！ ついてきて！」
30 ミツキ「あつ、待って真央ちゃん！ ひとりで先に行っては危ないわ」
31 真央「ここ！ ここだよ、ミツキお姉ちゃん！」
32 ミツキ「そう、わかったわ。ありがとう、真央ちゃん。危ないから少し下がっていてね」
33 ミツキ「施設の警戒態勢はまだ解かれていないし、室内にも警備がいると考えるのが
34 妥当よね」
35 ミツキ「子供達を無事に保護するためにも、ここはスピード勝負ね」
36 ミツキ「……よし！ いくわよ！」

1 ミツキ「……って、あれ？ 誰も……いない？ これはいったい、どういう、あつ!？」
2 ミツキ「ぐっ！ トラップ!? だけど、この程度……やあああつ!!」
3 真央「へ～～、上手くはめたつもりでいたけど、これくらいじゃやれないか……でも、
4 隙はできたよね」
5 ミツキ「なっ!? 真央ちゃん、あなたは何も」
6 ミツキ「し、しまった!? ゲホッ……ゴホッ、コホッ、ゴホッ……」
7 真央「ひゃひゃひゃひゃ！ なにが聖結晶姫よ！ ガキのフリすれば簡単に騙せる雑
8 魚じゃん！」
9 ミツキ「ハァー、ハァー、んくう！ ハァー、まさか、お前が」
10 真央「な～～に、驚いた顔してるのお？ そうだよ、アタシがこの組織のリーダーの真
11 央様よ」
12 真央「ダミーの情報に引っかかってノコノコとやってきてくれてアリガトー、おバカな正
13 義のヒロインさん」
14 ミツキ「ハッ、ハッ、ハッ……あら、だったらお礼を言うのは私の方ね……うっ、くう、ん
15 んっ……黙っていればいいのに、正体を明かしてくれた愚か者はそっちですもの」
16 真央「へ～～、まだそんな生意気な口がきけるんだ。で、もお～、強がってるのバレバ
17 レなんだけどー」
18 真央「さっきアンタが吸ったのはチョー強力的な媚薬よ。それもアンタ専用に調整した
19 特注品。あれだけ吸ったんだもの、身体中敏感になってムラムラしてきちゃってるでし
20 よお？」
21 ミツキ「ふ、ふん、なによ、これくらい……うっく、ふぁっ……こんなことくらいで私に勝
22 てると思っていたのかしら……ハァ、ハァ……聖結晶姫を見くびらないでほしいわ」
23 真央「とか言っちゃてえ～、さっきから太腿擦り合わせてどうしたのお？」
24 真央「ホントはアソコ疼きまくりなんでしょ？ 膝が震えてるわよ」
25 ミツキ「しつこいわね！ んんっ、ふっ！ あっ！ 感じてなんてない……疼いて、なん
26 て、ううう～～、ないんだから！」
27 真央「きゃははははは！ 強がる声もだんだんいやらしくなってるじゃん！」
28 真央「そんなピチピチのスーツ着てるんだもん、全身愛撫されているようなものでし
29 よ？」
30 真央「それじゃあ、そろそろ淫乱ヒロインさんをボコボコにしちゃおうかなあ～～」
31 ミツキ「ふっ、くうう、んっああ……ハァ、ハァ、ハァ……ま、負けない……私は、聖結
32 晶姫ミツキは、こんな卑怯な手に……絶対、負けたりしないわ！」
33 ミツキ（か、身体、敏感になりすぎて、感じすぎちゃう……まだ、動ける内になんとかし
34 ないと）
35 ミツキ「くうう！ んんっ、んっくう……ハァ、ハァ……ガントレット、も、モード、ふああ
36 あっ!? せ、セイバー！」

1 真央「ぷっ！ もしかして、それで攻撃してるつもり？ 遅すぎてあくびが出ちゃうんだ
2 けどー」
3 ミツキ「ふあっ!? スーツが、擦れて……で、でも、まだ動ける！ っはああああああ！」
4 真央「だーかーらー、そんなの当たらないって言ってるでしょ。アンタはもうまともに戦
5 えない身体になっちゃったのよ！」
6 真央「攻撃ってのはねー、こうやってやるのよ！」
7 ミツキ「くひiiiiiiiiインツ！ こ、これえ、身体が痺れるううう！ ああ、んくうううう
8 っ！」
9 真央「どおお～～アタシの催淫(さいいん)パルスの味は？ ガスで敏感になってるア
10 ンタじゃ耐えられない気持ち良さでしょ」
11 ミツキ「う、くうう……さ、催淫パルス、ですって……」
12 真央「そうよ、アタシの手は官能神経を刺激する電気が流せるの。発情しちゃってる
13 変態変身ヒロインには堪らないでしょお？」
14 ミツキ「ふあっ！ んっひ、くうん！ な、何度も言わせないで……私は負けない……
15 例えそれが、どんな快樂であつても！」
16 真央「ふーん、だったらアンタが立っていられなくなるまで電撃を浴びせてあげるう。ヨ
17 ガリ狂っちゃえー！」
18 ミツキ「はううう！ んあっ、かひiiiiii～～、ま、また、ビリビリして……ち、力が、
19 抜けるううう～～」
20 真央「ほらほら、どうしたのお？ 反撃しないなら、ドンドンいっちゃうよお～～」
21 ミツキ「くふううう！ ふあっ、ああああ……し、痺れるっ……うっ、ああああ～～」
22 真央「きゃはははははっ！ だらしない顔お～～！ 負けないとか言ってたくせに涎垂ら
23 すほど気持ち良くなっちゃってんじゃん！ ほ～ら、もっと喘げ！」
24 ミツキ「はふああああ――！ ハア、ゼエ、うっあ……ま、けない……私はまだ、戦え」
25 ミツキ「はああぎゅうううううう！ うっあああ、ゼエ、ゼエ、ゼエ……くう、あ……」
26 ミツキ「ひぎiiiiiiii！ またあ、パチパチってええ～～！ あがああああ！ うああ
27 あ、アアアアツ!!」
28 真央「きゃははは！ まだ倒れないなんて、アンタってホント強情だね」
29 真央「けど～～、やせ我慢も限界なんじゃない？ 足、チョープルプル震えてんじゃ
30 ん！」
31 真央「生まれたての子馬みたいになってんのに、まだ戦えると思ってんのお？」
32 ミツキ「くううう！ はあ、はあ、ああっ……たた、かえる……私は、まだ……あつくう、
33 ハッ、ハッ……んくう、やれるわ」
34 真央「へええ～～、そうなんだー。だったら反撃してみたらあ？ ほらほら、大サービス
35 で1発殴らせてあげる。まだ戦えるところみせてみなさいよ」
36 ミツキ「はあ、はあ……ば、バカにして……その油断を、後悔させてやるわ」

1 ミツキ(う、動いて、私の身体……このチャンスをものにするのよ！)
2 ミツキ「負けない……私は絶対、負けたりしない！ たあああああ！」
3 ミツキ「えっ!? あっ、そんな!?!」
4 真央「ぷっ！ ヒヤヒヤヒヤヒヤ！ えっ？ なに驚いてんの？ まさか、本当に殴らせ
5 てもらえると思ったの？ バツカなんじゃないのおおお～～」
6 真央「敵の言うこと真に受けた上、そんなヘロヘロのパンチしか打てないとか、もう完
7 全に終わってんじゃない！」
8 真央「いい？ パンチってのはねえ、こうやって打つのよ！」
9 ミツキ「ガハッ！ あっ、ううう！ ギャアアア！ あうあう……つああ……」
10 真央「きゃはははは！ 遂にダウンしちゃったね。芋虫みたいに転げ回って惨め～
11 ～！」
12 真央「けどいいのお？ 早く立たないと……ほーら、こうやって簡単にマウントとられち
13 ゃうよ」
14 ミツキ「くっ、うう、このくらいで、勝った気にならないで！ は、離れなさい！」
15 真央「勝った気、じゃなくて、もうアタシの勝ちなんだよねえ。敗北が受け入れられない
16 なら、もっとしっかり叩きこんであげるう～～。はい、ばんざーい！」
17 ミツキ「なっ、背中から機械の腕が！ あぐううう！ ううう、な、なんて、パワーな
18 の!?!」
19 真央「アタシは対聖結晶姫用に作られたアンドロイドだからね。弱ったアンタのパワー
20 じゃ敵わないのは当然でしょ」
21 ミツキ「はあ、はあ……だとしても、私は絶対に諦めないわ！ 私の心はお前なんか
22 に負けたりしない！」
23 真央「この状況でまだそんな強気な目ができるのはさすがね」
24 真央「だ・け・ど、言ったわよね。アタシはアンタを倒すために作られた。当然、弱点も
25 全部把握済みなんだよ」
26 真央「アンタが快樂にすご～～く弱くて、しかもエッチな気持ちになっちゃうと、エネ
27 ルギー減っちゃうことも」
28 ミツキ「ふ、ふん！ このくらいのピンチなんて、今まで何回も乗り越えてきたわ！ 聖
29 結晶姫を甘くみないで！」
30 真央「はいはい、ホントはビビってるくせに強がっちゃって」
31 真央「まあ、そっちの方が屈服させがいあるし、アタシは嫌いじゃないけどねー」
32 ミツキ「だから、私は恐れてなんて……ああっ!? ちょっと、やっ、な、何をするつもり
33 よ？」
34 真央「あれえ？ 言わなくたってわかるでしょ？ そのエッチな身体をもっと気持ち良く
35 してあげるう～～」
36 真央「知ってるわよ、アンタおっぱい弱いんでしょ？」

1 ミツキ「なっ!? そ、そんなことな……くふう、うっ、あああん！ や、やめなさい！」
2 真央「あら～～、想定以上におっぱい感じるみたいねえ～～」
3 真央「ちょうどいいわ。アンタを油断させるために幼女タイプのボディにされちゃったか
4 ら、おっきいおっぱいって羨ましくてムカついてたんだよねー」
5 ミツキ「や、やめろって、言ってるでしょ！ はううん！ ふっ、くうう、アンツ!! や、や
6 めなさ、くひいいいいい！」
7 真央「大きいだけじゃなくて形も良くて、その上感度抜群とかどんだけエッチなおっぱ
8 いしてるのよお～～」
9 真央「すごく柔らかくて、しっとりしてて、指に吸い付いてきて、こんないやらしいのぶ
10 ら下げてて恥ずかしくないのお？」
11 ミツキ「だ、黙りなさい！ 私はいやらしくなんて、んっ、あああん！ んっはああ、も、揉
12 むの激しすぎる……やめっ、ろおお～～」
13 真央「ま～～だ、そんな強がり言っちゃって。乳首こんなに勃起させて、感じまくってる
14 のバレバレだよ」
15 真央「スーツ越しにでもわかるくらい勃(た)ってる、これ、弄ったらどうなっちゃうんだ
16 ろうねええ～～」
17 ミツキ「なっ!? や、そ、そこはあ!! ひゃん、ち、乳首はああ！ ふああああっ！」
18 真央「くひひひ！ すごい反応！ ちょっと摘まんだくらいで腰くねらせて、そんないい
19 んだ——。ほーら、ほ～～ら～～、どう？ 乳首気持ちいい～～？」
20 ミツキ「ひぎいい、アッ、アンっ！ そんなコネないで、ダメよ、乳首、そんなあ、んひい
21 いい～～、アンっ、あああん！ やだっ、やめて！」
22 真央「いい感じに蕩けてきたねー。データ通り、乳首責められるとエッチなスイッチ入
23 ってもうメロメロじゃん！」
24 ミツキ「ひ、卑怯よおお～～、こんな弱い責め方ばかりして……はひいいいん、つあああ
25 あ！」
26 ミツキ「それダメええええ！ 乳首いじりながら、おっぱい揉まないでええ——、それは
27 反則よおおお～～」
28 真央「きゃはははは！ こんな淫乱なおっぱいしてるアンタが悪いんでしょ」
29 真央「せっかくだし、このままおっぱいだけでイカせちゃおうかな～～」
30 ミツキ「くひいいいん、はあああん！ みくびら、ないで！ だ、誰が、胸だけ、イッたり、ふ
31 あああ～～、ハア、ハア、する、もんですか……はあー、はあー」
32 真央「ふーん、その台詞、アタシの催淫パルス流された後でも言えるかなあ？」
33 ミツキ「ええっ!? なにをバカなことを言って！ やめなさい！ いや、やめて……あん
34 なの、胸に流されたら……」
35 真央「だーめ、もう遅いよ～～」
36 ミツキ「な、あ!? きやつ……きゃあああああああああああああ！」

1 ミツキ「ひいいい！ んぎいいいいい！ こ、これえええ、強すぎるのおおお！」
2 ミツキ「おっぱい、痺れへえええ、おがじぐなるう！ 溶けちゃう、おっぱい、溶けちゃう
3 う」
4 ミツキ「乳首も、ビリビリひへええ！ 壊れちゃううう、感じすぎちゃううのお！」
5 ミツキ「んっああああ！ はぎゅひいいい！ お、お願い、もうどめでえええ！ おっぱい、
6 あづいのおお、蕩ちゃううう！」
7 ミツキ「も、もう、無理いいい！ 我慢できない、い、い、イグうう！」
8 ミツキ「あびゃああ、つくひいいいい！ んっアアアアア！ ぞ、ぞんなあ、わだじいい、
9 おっぱいでえ、イグウウウ！ いっひいいいいい！」
10 ミツキ「ハッ、ハッ、ハッ、ハッ……う、あ……はへえええ～～」
11 真央「きゃははははっ！ なあああにが、私は負けない、よお。おっぱいだけでイッちゃ
12 うクソ雑魚淫乱女じゃない」
13 真央「汗と涎で顔、ぐっしょぐしょになってるし、チョー、惨めじゃん」
14 真央「最初は殺すつもりだったけど、こんなにチョロいんだったら奴隷にした方が面白
15 そうね」
16 真央「ふふっ、楽しみにしてなさい。これからアンタのこと、た～～ぷりと調教して、あ
17 げ・る！」

19 ★トラック2 墮淫開発の嘲笑

20 ミツキ「うっ……うう、ここは？」
21 真央「あら？ やっと目を覚ましたのかな、クソ雑魚淫乱ヒロインさん」
22 ミツキ「なっ!? そうだ、私は」
23 ミツキ「くっ、うううっ！」
24 真央「アンタってホント、バカだよねえ～～。負けたのに、何もされてないと思ったの？」
25 ミツキ「くうう～～この鎖を解きなさい！ こ、こんな格好、屈辱よ」
26 真央「やーだよー！ それにい、アンタみたいな痴女にはお似合いじゃない？」
27 真央「後ろ手に縛られた上、M字開脚させられちゃってる惨めなポーズ。奴隷のアン
28 タにこそ相応しいと思うでしょ」
29 ミツキ「私はお前の奴隷になんてなった覚えはないわ！ 戯言もいい加減にしな
30 い！」
31 真央「ふーん、ご主人様にそんな口きいちゃうんだ。さっきあんな無様にイッたくせに
32 威勢の良さだけは残っているみたいね」
33 真央「で・も、本来のアンタならそんな鎖なんて簡単に引き千切れるよねえ？」
34 真央「それができないってことは、それだけ弱っちゃってるってことだよね～～」
35 真央「その証拠にほら」
36 真央「スーツもこんなに簡単に破れちゃう。エネルギーが相当低下してるわね」

1 ミツキ(くっ……悔しいけど、コイツの言うとおりに、身体の火照りが治らない。力も全然
2 入らないわ……でも！)

3 ミツキ「何度でも言うわ……私は負けない……聖結晶姫ミツキの心は決して折れない
4 わ！」

5 真央「ぷぷぷっ！ そんな情けない格好で凄まれたって、全然怖くないけどねー」

6 真央「それに、アンタの弱点は把握済みって言ったでしょ。弱いところ責められまくっ
7 て、いつまで我慢できるから楽しみだなー」

8 真央「きゃははは！ はーい、これでアンタのアソコ丸出し！ ねえねえ、オマンコ晒し
9 ものにされてどんな気分？ ねえ、どんな気分？」

10 ミツキ「……随分と低俗な質問をするのね。見た目だけじゃなくて、思考回路もお子様
11 に設計されているのかしら？」

12 真央「ふーん、すました態度とってくれちゃうんだ。まあ、いいや。そうやって余裕ぶ
13 ってるやつを慌てさせた方が楽しいもんね」

14 真央「それじゃあ、第1回！ クソ雑魚変身ヒロインのオマンコ品評会を始めたいと思
15 いまーす！」

16 ミツキ「はあっ!? 何をバカなことを、ンッ！ ふあっ！ ちょ、か、顔、近づけないで！」

17 真央「あれれ～～、どうのことでしょう？ 男好きのするこんなエッチな身体をしてる
18 のに、アソコの毛が1本もありません。赤ちゃんみたいにツルツルで一す！」

19 真央「もしかして、剃ってるの？ パイパン趣味とか、マニアックだねえ」

20 ミツキ「ち、違うわよ！ そんな趣味ないわ！」

21 ミツキ「仕方、ないじゃない……小さい頃から、その……全然、生えてこないんだもの」

22 ミツキ「ふっ、ああああん！ そんなところ広げないで……触っちゃ、ダメ……」

23 真央「さてさて、天然パイパンであることが判明したクソ雑魚ヒロインマンコだけど、形
24 は意外にも綺麗だねえ」

25 真央「陰唇は薄めで左右対称……黒ずみもないどころか、鮮やかなピンク色とか、淫
26 乱ヒロインとは思えない見た目」

27 真央「だ・け・どお！ 愛液はメチャネバネバしてて、雌の臭いがプンプンするうう～～」

28 真央「しかも、なじられたら、また溢れてきたよ！ きゃははは！ すっごいマゾじゃ
29 ん！」

30 ミツキ「やめなさい……臭いなんて、ううう、アアンツ！ 嗅がないで……」

31 ミツキ「ひゃああん！ ふあっああ、い、息、かけないで……ンンンツ!!」

32 真央「ちょ～～と刺激してやったら、割れ目ヒクヒクさせちゃってえ。変態ヒロインの本
33 性が見えてきたかなあ？」

34 真央「ところで～～、さっきから気になってたんだけどお。アンタのクリ、チョー大きくな
35 い？ ってか、デカイよねえ！ 1センチ以上あるんだけど」

36 ミツキ「う、うるさい！ 人が気にしてること、はっ！ ひゃあああん！ や、やめて、触ら

1 ないでえ」
2 真央「うーけーるー、先っぽチョンって触っただけなのに、腰めっちゃ跳ねてるし」
3 真央「皮剥けるほど勃起させちゃって。ツヤツヤした真っ赤なお豆がビンビンになって
4 るわね。ちょっと味見しちゃおと……ペロッ！」
5 ミツキ「ひゃあああああああ——！ だ、ダメ、そんな、舐めるなんて、んひいい
6 い！ やめてえええ、それ、弱いのおおお——！」
7 真央「あっはああ～～、そんな声出されたらあ、やめるわけないじゃ～～ん！ レロ
8 ッ！ ペロッ！ チュッ！ チュッ！」
9 ミツキ「はぎゅうう！ い、いやっ、あああああああ！ 本当に、そこは、あひいいい！
10 ダメ……ダメダメダメえええ！ 敏感らろおお！」
11 ミツキ「はううん！ アッ、アッ、アッ！ 嚙まないれええ！ 吸わないれええ……しょこ
12 お、は、許してえ……アンツ！ ハア、ゼエ、ひゃあああんん！」
13 真央「えー、そこってどこのこと言ってるのお？ ちゃんと名前と言わないとわかん
14 ないんだけどお～～」
15 ミツキ「そ、そんなこと、ひぐうう！ 言える、わけ、ふひゃあああ！」
16 真央「まだくだらないプライドにしがみついているの？ いい加減に認めちゃいなよお」
17 真央「アンタは正義の変身ヒロインなんかじゃない。ただのデカクリ変態マゾだって」
18 真央「はむう、ンチュウウウウウウ！」
19 ミツキ「くひいいいいい！ だめええ、しよれええ、強すしゅぎるう！」
20 ミツキ「アッ、アッ、アアアア！ ダメ、ダメ、も、もう、我慢できない……イクウ、イツちゃ
21 ううう——！」
22 ミツキ「はっ、ひいい、ううう……はあ、はあ……えっ!？」
23 ミツキ「やらああ、まだITTたばかりなのに……いじらないでええ——！ また、アクメき
24 ちゃうからああ～～」
25 真央「へー、そんなに気持ちいいんだあ？ ねえ、どこ？ どこをいじるのやめてほし
26 いの？」
27 ミツキ「つうう～～、それはあ、ハア、ハッ……んひゃあああああ！ 捻じんないれえええ！」
28 ミツキ「お願い、そこは、許してえ……やめてってばあ、アッ、ああああ～～」
29 真央「だったら言いなよ。早くしないと、アンタの大切なお豆、擦り切れちゃうよお」
30 ミツキ「ああっ、うつああああ～～、くっ、ううう……クリ……ス……」
31 真央「え～～、なーにー？ 声がちっちゃくて、全然聞こえなーい！」
32 ミツキ「うううう……く、く……クリトリス！ クリトリスよ！ もう、いじらないでえ！」
33 真央「きゃははは！ 自称正義の味方さんが大声でクリトリスとか叫んでるよ！ チョ
34 うーける——！」
35 真央「ねーねー、なんで、なんでー？ 淫乱痴女のミツキはなんでクリいじってほしく
36 ないのお？」

1 ミツキ「なっ!? そ、そんなことまで、言えるわけ……ひゃああああああ！ 爪立てない
2 でえええ！ 潰れるうう、クリ、潰れちゃううう～～」
3 ミツキ「ハア、ハア、あああん！ くひいい！ か、感じちゃうから……わたし、クリが1
4 番弱いのお……そこ、責められるの、苦手なお……だ、だからあ、やめてえ……」
5 真央「はい、よく言えたわね！ えらい、えらい！」
6 真央「それじゃあ、ご褒美にい……アンのデカクリに催淫(さいいん)パルス流してあ
7 げるう！」
8 ミツキ「そんな、約束が違うわ！ 私、ちゃんと言ったじゃない！」
9 真央「アタシは、どこで感じてるか言えって言うただけでえ、やめてあげるなんて一言
10 も言っていないよ～～」
11 真央「なに、勘違いしてんのお？ バーカ、バーカ、バー——カ！」
12 真央「そんな、派手にイッちゃいな！」
13 ミツキ「ひぎっ……イッきやあああああああああ——！」
14 ミツキ「ひいッ！ んぎいいいい！ ひいいいいいい、こ、これえ、強しゅぎるうう！ い
15 っぎいいいいいい！」
16 ミツキ「あがあああ！ は、弾けりゅう、ひっぎいいいいいい！ クリ、があああ、弾けひや
17 うううううう！」
18 ミツキ「ふあああああ～～はっあああ！ こんらろお、い、イクうううううう！ イッちゃう
19 ろおおおお～～！」
20 真央「きやははははははは！すごい、潮の量！ でも～、こんなもんじゃ許してあげな
21 いからあ」
22 真央「まだまだ、もっとイキまくれ！」
23 ミツキ「な、なあああっ！ ふひやああ！ やらあ、離しへええ……電気、止めへええ～～」
24 ミツキ「わらひ、イキ終わってらいろお……ビリビリされへえ、イグのお、止まらないの
25 お」
26 ミツキ「あぎいいいい！ あひっひやああああ！ お願い！ お願いだから、離してへえ」
27 ミツキ「ふああああっ！ あんっ、ひぎい……はひ、はひ、はひいいいい～～！」
28 ミツキ「も、もう、イギだくないいい～～！ おおおおっ、んひいいいいいい！ あだまあ、
29 おがじぐう、なるうう……」
30 真央「ぷぷぷぷっ！ ひっどい顔～～！ 限界？ ねえ、もう限界？」
31 ミツキ「は、はい！ 限界……もう、限界だからああ～～」
32 真央「あっ、そ！ まあ、だからって許すわけないんだけど。イキ狂っちゃいなよ、クソ
33 雑魚淫乱ヒロインさん！」
34 ミツキ「ひゃあああ……あっあああああああ——！ イグ、イグ、イグううううう！」
35 ミツキ「イギすぎでえええ！ はぐううああああああ！ もう、狂……う……」
36 真央「あーらら、耐えきれずに失神しちゃったかあ。しかもお漏らしまでして、とことん

1 惨めだねえ」

2 ミツキ「……あう……あう……はっ、ひいいい～～」

3 真央「もう体力も気力も満足に残ってないよねえ～～」

4 真央「ひゃひゃひゃひゃ！ 次でトドメ刺してあげるから、楽しみにしてなさいよね！」

7 ★トラック3 絶頂渴望の肉体

8 真央「ほら、いつまで寝てるの。起きなさいよ、クソ雑魚淫乱お漏らしヒロインさん」

9 ミツキ「ひぎいいいいい！ あひぎいあ！ ハア、ハア……あああ、うう、わ、わたし……

10 また、イカされて……くう！」

11 真央「はい、おはよー！ そうだよ、アンタは無様にイキまくって失神してたんだよお」

12 真央「チョー、情けないアへ顔晒して、涎ダツラダラこぼしてさー、傑作だったなあ」

13 ミツキ「くっ……無駄よ。こんなことを続けたって、私の心は絶対に折れたりしないわ」

14 真央「まーだ、そんなこと言ってるんだあ。それとも、もしかして気付いてないの？ アンタを墮とす準備はもう整ったってことを」

16 ミツキ「ふん、戯れ言を……どんな辱めを受けても、私は……ひゃああん！ くっ、あ
17 あああっつ！」

18 真央「墮ちないかどうかは、アンタの下のお口に聞いてあげるう」

19 真央「愛液止まらなくなってる、このビラビラ発情マンコにね」

20 ミツキ「やめっ、ふっああああ～～！ 広げないで、ンツ、ああっ、あああああ！ 指、入
21 れるなあ～～」

22 真央「へえ～、もっとガバガバなのかと思ったけど、入り口の締めりは中々じゃない」

23 ミツキ「ひいぎ、くはっああ！ アンツ！ アアアンツ！ な、中、掻き回さないで……ふ
24 ああああああ～～、抜いて……早く、抜いてええ～～」

25 真央「もー、上のお口はウソついてばっかだね。下のお口はメチャ締め付けてきて、も
26 っと激しくしてっておねだりしてるよお」

27 ミツキ「し、してない！ おねだりなんて、絶対しな、ふぐうああ！ ああっ、あああん！」

28 ミツキ「そ、そこ、ダメえ……指、曲げるのお……ダメらろおりい～～」

29 真央「きゃはははは！ はい、Gスポット発見！ 擦ってやると膣がうねって感じまく
30 ってるの丸わかりだよ」

31 真央「ってか、いくらなんでも愛液垂らしすぎじゃない？ さっきのお漏らしと合わさっ
32 て、水溜まりになってるんだけどー」

33 ミツキ「く、悔しい……こんなこと言われてるのに……言い返せない……感じちゃって、
34 頭がまともに回らないわ……」

35 ミツキ「くっひいいい！ ふっくううああ！ あ～～、あんう、お、奥、いやっ！ ゆる、して…
36 …」

1 真央「膣ヒダは多めで、しつとりと絡みついて離さない欲張りなオマンコね」
2 真央「なるほど、なるほど。正義の味方とか言う、淫乱痴女らしい、快楽に飢えた作り
3 になってるじゃない」
4 ミツキ「んっはああ！ はくう、あううん！ ハア、ハア……んっ……えっ？」
5 ミツキ「ど、どういう……ハア、ゼエ……つもり？」
6 真央「え～～？ 何があ？ 抜いて欲しかったんじゃないのか？ それとも、本当
7 はもっと弄って欲しかったとかあ？」
8 ミツキ「ち、違う！ そんなわけないわ！ 私は、あっ、くう……欲しがってなんて……」
9 ミツキ（そうよ、私は快楽なんて求めてない！ 求めてない……はずなのに……）
10 ミツキ「はあ——、はあ——、ふっくう……あっうん！ ひぐうん！」
11 ミツキ（なのに、なんで？ こんなにアソコが切ないの？ これも、媚薬のせいだって
12 いうの？）
13 ミツキ「ふう、ふう、ふう……アッ、アッ……ううう～～～～」
14 真央「あらあら、切なそうな声あげちゃって。我慢、できなくなってきちゃったんでしょ？」
15 ミツキ「ハア、ハア……そ、そんな、こと……」
16 ミツキ「えっ!? な、なによ、それ!？」
17 真央「ん～～、これ？ チンポだよ。正確にはナノマシンで作ったアンタ専用の疑似男
18 根」
19 真央「さっき指突っ込んで掻き回したのは、愛撫だけが目的じゃないの。アンタの膣
20 の形をスキャンしてたってこと」
21 真央「これで突いたら、いくらアンタでも耐えられないわよ。なにせ、アンタの気持ちい
22 いところ、ぜーんぶ、責められる最強チンポだから～～」
23 ミツキ「なっ、ああ……や、やめなさい……そんなグロテスクなもの近づけないで……」
24 ミツキ（なんて、太くて長いの……それにあの表面のイボイボ……あんなので擦られ
25 たら、私のアソコ、メロメロにされてしまうわ……またイカされまくっちゃう……）
26 真央「あれれ～～、急におとなしくなってどうしたのお？ 流石の聖結晶姫もビビっ
27 ちゃったあ？」
28 真央「どうするう？ 真央様の奴隷にしてください、って泣いて懇願（こんがん）すれば
29 まだ許してあげるかもしれないけどお？」
30 ミツキ「えっ、あ……くう……そんな、こと……言うわけないでしょ……ど、奴隷、なん
31 て……ハア、ハア……」
32 ミツキ「ひっくう！ や、やめろ！ そんなもの、擦りつけないで！ はっ、くう、先っぽ、
33 押しつけないでよ……くっ、ふああああ！」
34 真央「ウソつくのは身体に悪いよお。アンタのオマンコ、濡れ濡れのグショグショで、亀
35 頭当てただけでヒクついてるじゃん」
36 真央「欲しいなら欲しいって言いなよ。従順になるなら、優しくしてあげるよお～」

1 ミツキ「そんなの、絶対にしない……どんなに辱められたって……イカされたって……
2 奴隷になんて、絶対ならないわ！」
3 真央「あれれ～～、今のだと、アンタがイカされちゃうの前提なんじゃな～い？」
4 真央「もう、我慢できないって、降参しちゃてるようなもんじゃん」
5 ミツキ「あっ!? ち、違うわ! 今のは間違っただけよ!」
6 ミツキ「そうよ、私はイカない……我慢、でき、つうう! くうふあつ、あああああつ!」
7 ミツキ「そんな、急に、入って……ふ、不意打ちなんて、卑怯よ!」
8 ミツキ「くひっつ! カハッ、ああああ……ふ、太いいい……ふああつ、ひぐうう!」
9 真央「きゃははははは! チョー腰くねらせて、みっともないなあ」
10 真央「ちょ～～と、先っぽ入れただけじゃない。この程度でそんな喘いでるようじゃ、耐
11 えるなんて無理なんじゃない?」
12 ミツキ「はあ、はあ……あつんう……だ、黙りなさい……こ、これくらい、なんれえ、ころ
13 おお～～」
14 真央「涎垂らしてアへ声上げられても説得力ゼロなんですけど――!」
15 真央「ほーら、ゆううっくり入れてあげるから、堪能しなさいよ」
16 真央「アンタのその淫乱クソ雑魚マンコでえ」
17 ミツキ「ふっ、ふああああ! うぐうう! ハッ、ハッ、ハッ! くひいいいいん!」
18 ミツキ「た、耐えるのおお～～、わ、わらひ、はああ……聖結晶姫、ふ、不屈のお……あ
19 ん、あああん! 女、しえんしよお～～!」
20 ミツキ「かひいつ、うああつ! ふ、深いいい、お、お腹の奥ううう～～当たってえ……」
21 ミツキ「はう、あつはあああ～! あへ、え……あ……あ……」
22 真央「うつわああ～～、エロい顔お! おーい、目が虚ろになってるけど、大丈夫う?」
23 真央「まさかあんだけ大口叩いておいて、入れられただけでイッてないよねえ?」
24 ミツキ「あうう、くふう、あああ……いつ、イツへ、らあい……わらひい、た、耐えた、わ
25 ……」
26 真央「はいはい、それは良かったねえ～～。でもさー、アンタ犯されたって自覚ある
27 う?」
28 真央「M字開脚でオマンコ広げられて、ふたなりチンポ入れられて、それでアンタがで
29 きたことって、イカないように我慢することだけなんだよ」
30 真央「不屈の女戦士い? 無様肉便器の間違いじゃないのお～～」
31 ミツキ「バカにしたいなら……ゼエ、ゼエ……好きに、すればいいわ……」
32 ミツキ「私を、殺さなかったこと……後悔、ううつ、くつつ、はああああ～～さ、させて、や、
33 やっ……うくうはああ! う、動くなあああ～～」
34 真央「どんだけかっこつけようとしても、オマンコ搔き回されたらヨガリ声上げちゃうな
35 なんて、無様だよねえ」
36 真央「アンタのオマンコ、中キツキツでアタシのチンポ、めっちゃ締め付けてるよ～～」

1 真央「ヒダも絡みついて、ヌルヌルでトロトロで火傷しそうなほど熱いわね」
2 真央「こりゃ男共がアンタを滅茶苦茶に犯したくなる気持ちもわかるよお」
3 ミツキ「こ、腰、そんな激しく振らないでええ～～！ つ、強いい～～、激しい～～！」
4 ミツキ「振動が奥にまで、ひう、ひんうう！ ひ、ひびいへえ、子宮まで感じひやう！」
5 ミツキ「そ、そこダメ、そこ突かないへえ！ ヒクヒク、止まらなく、なるからあ、かつ、は
6 ああ～～！」
7 ミツキ「イボイボがあ、ああんん！ 敏感なとこ、あたっへえ、こ、こみ上げてきちゃう
8 からあ」
9 真央「ひやひやひやひや！ わかるよ～、アンタの膣がおねがりしてるの！ ヒクヒクし
10 て我慢できなくなってるのもね！」
11 真央「イキそうなんでしょ？ クソ雑魚マンコ、もう負けちゃいそうになってるんでしょ？」
12 ミツキ「ひぐう！ はぎゅう！ あひいい！ い、いやああ、わ、わらひいい……負けらく
13 う、らあい……イキ、たく、なんれえ……ないのにいい……」
14 ミツキ「はうう！ んつくう、はあ、へえっあ！ ゼエ、ハア……ず、ずるい、わよ……」
15 ミツキ「弱い、ところ……あひいいい！ ずっろ、なんれえ……されたらあ～～」
16 真央「こーんな、エッチな身体してる方が悪いんでしょ～～」
17 真央「みっともないアへ声あげて、今にもイキそうなほど太腿痙攣させてえ～～」
18 真央「もう限界、って顔に書いてあるわよ……ほ～ら、ラストスパートおおお！」
19 ミツキ「はひいい、ひいい、いいひい！ う、ウソ～、もっと激しくなるのお!？」
20 ミツキ「うああっ、く、くひいいい！ お、奥当たるの凄いのお～～！ んあっあああ～
21 ～！ 太くて、長くて、硬くてええ～～あしよこ、グチヨグチヨに蕩けるううう～～」
22 ミツキ「ず、ズボズボ、もうやめてええ！ くひああああ！ あひいいん……Gスポット擦る
23 のもらめええ～～！」
24 ミツキ「目の前があ、チカチカしゆりゆううう～～！ ダメええ——、もうイクの我慢するの
25 限界……ああ、あはああ！ い……い……イツ……」
26 ミツキ「えっ？ あ、え？ は、はあ、はあ、はあ……」
27 真央「なーに、物欲しそうな顔してるのお？ もしかしてイかせて欲しかったあ？ うわ
28 ー、やーらしんだあ」
29 ミツキ「っあ！ ち、違うわ……そんな、わけ……ハア、ハア……ないわ……」
30 真央「ふーん、あっ、そ。まだ頑張るんだあ～～、まあ、それでもいいけ、ど！」
31 ミツキ「くひやああ！ あっ、あっ、ま、また、奥、突き上げられてええ～～」
32 ミツキ「こ、これえ、角度変わって、さっきと違うところ強くなってるう」
33 ミツキ「やっ、あっ！ そこ、敏感で、はうう！ くっひやああああ！ こ、擦るのお、凄
34 すぎへええ！」
35 ミツキ「まだ、さっきのも治まりきってないのにいい！ そんなされたらああ～～！ くふ
36 うつ、ふああああ！ アッ、アッ、アッ、ま、まらあ、こみあげへえ～～」

1 ミツキ「ひくうう！ ハッ、ハッ、ああああああ！ やあつ、ひやああ！ らめええええ！
2 今度こそ、あらひい、イツちゃ……えっええ？」
3 真央「またイキかけたねえ。でも残念でした——、まだお預けだよお」
4 ミツキ「ハア、ハア、ハア、な、なんで？」
5 真央「きゃはははは！ 必死になっちゃてえ……強がってはいるけど、本当はイカセ
6 て欲しいんでしょ？」
7 真央「ほら、言ってみなよ！ どうか、雑魚マンコヒロインのミツキをイカせてください、
8 って！ 真央様のオチンポ奴隷にしてください、ってさ～～」
9 ミツキ「そ、そんなこと……言わない……言うわけ、ないわ……あっ!？」
10 真央「どうしたのお～～、イカせて欲しくないなら抜いちゃってもいいよねえ？」
11 ミツキ「そ、それは……はあ、はあ、くうううう！ あんっ、ああああ……せ、切ない……
12 なんなの、この心に穴が開いちゃったみたいな感覚は……ハア——、うう、くああ～
13 ～」
14 真央「それはあ～～アンタのオマンコがオチンポ抜かれて寂しくなっちゃったからだよ
15 お～～。子宮が疼きまくりで、何か入れてないとムラムラが止まらないでしょ？」
16 ミツキ「ふっ、くううう！ はへえ、はあ、な、なんでえ、こんなに欲しく、あああっん……
17 欲しくなってしまうの……」
18 真央「なんで、そんなになっちゃてるか、教えてあげようかあ？ アンタの身体はさっき
19 アタシが流しまくった催淫パルスのせいで、イクのが当たり前の身体になっちゃてる
20 の」
21 真央「わかるう？ 今のアンタはイケないことの方が何倍も辛いんだよお。このまま焦
22 らし続けたら狂っちゃうかもしれないよお」
23 ミツキ「なっ、あ!? そ、そんな……私の身体、そんなことになってるなんて……」
24 真央「いいねええ～～、その絶望した顔お！ さあ、どうするう？ それでもまだアタシと
25 やるつもり？」
26 真央「これは最後通知だよ？ まだ戦う？ それとも奴隷になる？」
27 真央「奴隷になるなら、アンタの大好きなぶっといこれでえ、穴の中ぐっちゃぐちょに搔
28 き回してイカせてあげる～～」
29 真央「でも、戦うって言うなら、どれだけ泣き叫ぼうが容赦してあげないからあ」
30 真央「さあ、選びなよ……淫乱クソ雑魚ヒロインさん！」
31 ミツキ「ハッ、ハッ、ハッ……はあ、ううう、くうう～～、わ、私は……くうう……」
32

★トラック 4 不屈少女の信念

34 ミツキ「それでも、私は戦うわ……諦めなければ、勝てる可能性はゼロじゃない……
35 だったら、私はそれに賭けるだけよ！」
36 ミツキ「たとえどれだけ辱められ、身体を穢されても、絶対に心は折れない！ それが

1 聖結晶姫ミツキよ！」
2 真央「……はあ……ふ——ん、へえ——……なにそれえ……つまんない……」
3 真央「あーあ、なんか興奮めしちゃったなあ……アンタが心の底から屈服しないなら、
4 聖結晶の力も手に入らないんでしょ……だったら、もう、いらないかな」
5 ミツキ「ハア、ハア……くう、うう、ど、どういう意味よ？」
6 真央「ん～～、おバカにはもっとわかりやすく言わないとわかんないかあ……アタシの
7 物になんないならあ、ぶっ壊しちゃおうって話」
8 ミツキ「ひぎゃあああああああああ！ あがつ、あああ……なつ、あああ……」
9 真央「この胸の結晶体はアンタのエネルギー源であり、弱点でもあるんでしょ？」
10 真央「データじゃ、ここを攻められると死ぬほど苦しいんだって？」
11 真央「くひひひっ！ どんだけ丈夫か知らないけど、攻撃され続けたらその内割れる
12 よねえ」
13 ミツキ「なっ!? あっ、それは!? や、やめっ、ぎゃあああああああああ！」
14 真央「きゃはははは！ いい声ええ～～。苦痛に滲むその顔も最つつ高！」
15 ミツキ「うっ、あああ……ガハッ！ せ、聖結晶、が壊れちゃう……やめ、て……」
16 真央「今更命乞いしたって遅いつての！ 言ったでしょ？ 戦うっていうなら容赦しな
17 いって！ 聖結晶を粉々にしてあげるうう～～」
18 真央「アンタがどこまで耐えられるか楽しみい。まずは、このドリルからいってみようか
19 あ？」
20 ミツキ「ま、待って！ そんなことされたら……ひぎゃあああああああああ！」
21 ミツキ「あぎいいいいいい！ ひぎゅう！ はぎゅううううう！」
22 ミツキ「痛いいいい、いだいいいい！ せ、聖結晶があああ、決れでええええ！」
23 真央「まだ低速モードなのにもう弱音吐いちゃうのお？ 情けないなあ……でも、手加
24 減しないからあ。ほーら、スピードアーーップ！」
25 ミツキ「いぎゃあああああああ！ ごわれううう！ ぜいげづじょう！ 削れりゅうううう！
26 んぎいい！ あぎゅうああ！」
27 ミツキ「身体、バラバラになるうう～～、あがつああ！ や、やべでええ～～、もう、ゆ
28 るじでえええ～～！」
29 真央「きゃははは！ アタシに逆らったこと後悔してるう？ まあ、今更手遅れなんだ
30 けどね～～、よーし、最高速だあ！」
31 ミツキ「うぎゃあああああああああ！ がっあっ！ へぎゅう！ ごわれるううう、わだじ
32 いい、ごわれじやううう～～！」
33 ミツキ「あぎいい！ ひぎぎぎぎぎぎ！ あぐがあああああああ！ いつ、やあ……も、もう
34 ……限界、らろお……」
35 ミツキ「やべでええええ！ ぜいげつじょおお、本当にいい、ひぎい、あああああ、割れじ
36 やうろおおおお～～」

1 ミツキ「ほごあがあああ！ へっぎやあああああああ！ あ……つ、ああ……」
2 真央「あら、ドリルの方が先に壊れちゃった……聖結晶は……へー、これだけやっ
3 ても無傷なんだあ、ゴキブリ並にしぶといなあ」
4 ミツキ「ハア……ハア……うああ、かはっ……ハア——、ハア——」
5 真央「きゃはっ！ でも、いくら聖結晶が丈夫でも、持ち主がクソ雑魚淫乱じゃ意味な
6 いよねえ」
7 真央「痛みに耐えきれなくて、白目剥いて泡ふいてんじゃん。おーい、起きろ～～クソ
8 雑魚おお～～」
9 ミツキ「ガハッ！ ゲホッ！ ゴホッゴホッ！ あ、う……」
10 ミツキ「うっ、あ……はあ、はあ……あっ、あああ……真央……がはっ!?」
11 真央「なーに、呼び捨てにしてんのよお！ 様をつけろ、様をお！」
12 真央「ねーねー、クソ雑魚お。次はレーザーで焼かれるのと、電撃を浴びせられるの、
13 どっちがいい？ どっちみち両方やるんだけど、順番だけ選ばせてあげるう」
14 ミツキ「……はあ、はあ……で、でん、げき……」
15 真央「はあ？ ……ぷっ！ きゃはははははははは！ はあ？ なになに電撃がいいの
16 お？ ってか、律儀に答えるとか、ウザいくらいしぶといアンタも遂に諦めたのお？」
17 ミツキ「……ける……の、は……よ……」
18 真央「えっ？ なんか言ったあ？ 声までクソ雑魚ボイスだからよく聞こえないんだけ
19 だお。命乞いなら一応聞いてあげるう……まあ、聞くだけだけどお！」
20 ミツキ「電撃を……受ける、のは………そっちよ！」
21 ミツキ「ガントレット！ モード、ライトニング！」
22 真央「ひぎやあああああああ！ なっ、なっ、なにiiiiiiiiiii！」
23 真央「あああっ、うう……な、なんで……なんでまだ……こんな力が……」
24 ミツキ「お前の、はあ、はあ……おかげよ……痛みのおかげで、はあ、くう……疼きを
25 少しだけ忘れられたわ」
26 ミツキ「快樂さえ、弱まれば……まだ、力を振り絞れるわ……あっ、くう……」
27 真央「チッ！ 今の攻撃で拘束まで解くなんて……」
28 真央「けど、今ので決められなかったのは残念だったわね！ そのフラフラの身体じ
29 や、これ以上動けないでしょ？」
30 真央「アタシは、まだ、動け、ガガッ、ピッ！」
31 真央「なっ？ あっ、あれ？」
32 ミツキ「狙い通り！ 機械であるお前にはライトニングは効果抜群だったようね。そっ
33 ちこそ、フラフラしているわよ」
34 真央「ガガッ！ ナ、なめる、ナ！ クソ雑魚、ノ、くせに……殺す、もう、クロス！」
35 ミツキ「いいえ！ 勝つのは私よ！ ガントレット、モードセイバー！」
36 ミツキ「はあああああああ！」

1 真央「ウソ……デショ？」

2 ミツキ「はあ、はあ、はあ……か、勝った……」

3 ミツキ「はあ——、はあ——、はあ——、本当に、ギリギリだったわ」

4 ミツキ「あの時、あいつの誘惑に乗っていたら、きっと私はもう、二度と戦えなくなって
5 いたでしょうね……」

6 ミツキ「ありがとう、聖結晶……私の最後の足掻きに答えてくれて……」

7 ミツキ「これからもきっと、今日のように苦しい戦いが待ち受けているかもしれない」

8 ミツキ「それでも、私は最後の最後まで諦めずに立ち向かい、勝利を掴んでみせるわ」

9 ミツキ「それが、私の……聖結晶姫ミツキの使命なのだから……」

11 ★トラック EX 屈服奴隷宣言

12 ミツキ「う、あ……ああ……ふっ、あああああ～～」

13 ミツキ「も、もう、ダメえ……このままなんて、本当に、頭、おかしくなってしまうわ……」

14 真央「ふふっ！ そうだよなあ……だったら、どうすればいいかわかるよねえ？」

15 ミツキ「あっ……くう……イカ、せて……ください……」

16 真央「え～～～、なにになににいいいい？ 声が小さくて、きーこーえーな——い——
17 ー！」

18 ミツキ「うう、だ、だから……イカせてくださいって言ってるのよ！」

19 ミツキ（悔しい……悔しいけど、今はこうするしかないの……アソコ、疼き過ぎて、おか
20 しくなりそう……）

21 真央「え～～、なに、その反抗的な頼み方。誠意ってもんが感じられないなあ」

22 ミツキ「くう、だったら……どうすればいいのよ……んくう！ はあ、はあ、はあ……」

23 真央「なーに～～、そんなことも教えてもらわないとわからないんだあ。マンコだけじゃ
24 なくて脳みそもクズみたいねえ」

25 真央「まあ、アタシ今ちょっとだけ気分いいから教えてあげるう……ごによごによごによ」

26 ミツキ「なっ!? そ、そんなこと！」

27 真央「あれ～～、言えないの？ だったら、イカせてあげな——い！ そのまま狂うまで
28 悶えてるといいわ」

29 ミツキ「っうう！ ま、待って！ 言うわ……言う、から……」

30 ミツキ「私は……聖結晶姫ミツキは……快樂に負けた、惨めでいやらしい……め、雌
31 豚です……」

32 ミツキ「ううつ、くうう！ お、オマンコ……疼きっぱなしのクソ雑魚淫乱ヒロインに真央
33 様のぶっとくて、たくましいイチモツで……イチモツで……」

34 ミツキ「肉便器奴隷にしてください！」

35 ミツキ「お願い！ 早く、早くイカせて……もう我慢の限界なの……焦らされるの、もう
36 無理なのおお！ 欲しいいい、欲しいいいのおおお！ ぶち込んで！ オチンポぶち込ん

1 でええええ！」
2 真央「きやはははははは！ あんだけ負けないだのなんだの言っておいて、結局落ちて
3 るじゃあ～～ん！ マジで、クソ雑魚雌豚ねえ！」
4 ミツキ「はい！ 雌豚です！ だから、早くう！ 早くうう！ 子宮、欲しくて堪らないろ
5 おお！」
6 真央「はいはい、わかったわよ！ 入れてあげるうう……それで——、派手に昇天しち
7 やいなあ！」
8 ミツキ「いんぎゅうううう！ きたああ、きたああああ～～！ すごい、奥に当たってり
9 ゅう！ ズコズコ、子宮突き上げられてるのおおお！」
10 ミツキ「しゅごい、しゅごいろおお！ きもひいい、あひゅああ！ あへっ、あはっ！ く
11 るのおお、ビリビリ痺れへええ！ オマンコ喜んでりゅろおお！」
12 ミツキ「気持ちいいところ、じえんぶ当たってるうう～～！ イクう、イクのおお！」
13 真央「そうよ、もう何も我慢なくていい。アタシのチンポに屈服しなさい、クソ雑魚淫
14 乱雌豚のミツキ！」
15 ミツキ「はい！ イキまじゅう！ 真央様のチンポに負けて、わたし……わらひいい、
16 イックウウウウウ～～！」
17 ミツキ「あひいいい！ んひゃあああああ！ あらまあ、痺れへえええ！ まっひろりい、
18 なりゅううう～～！ あ————、あ————、あ————！」
19 ミツキ「ハッ、ハッ、ハア……うう、ああ……」
20 真央「ふひひひひ！ あー、無様ねえ、正義のヒロインさん。白目剥いて、涎（よだれ）
21 垂らして、おまけにお漏らしまでして、そんなに気持ち良かったの？」
22 真央「って、こいつ完全に飛んでるじゃん。1回で気絶とか、雑魚すぎる～～」
23 真央「まあ、でもお、そんなのアタシには関係ないから、このまま続けるけど、ねっ！」
24 ミツキ「ひぎゃあああああああ！ あっ？ えっ？ んっああ、あああああああ！」
25 真央「おはよー、目え、覚めたあ？ ほらほら、休んでる暇なんてないからドンドン行く
26 よお」
27 ミツキ「んひいい！ あっ、ちょ、ちょっと待って！ さっき、イッたばかりで、ふっぎゃあ
28 あ！ ああん！ あん、あん、ああああ～～」
29 ミツキ「イッたばかりは敏感なお……お願い、止まって、そんな、激しくされたら、す
30 ぐイッちゃうから」
31 真央「はあ？ 何言ってるのお？ そのためにやってるんじゃない。アンタが絶対に逆
32 らわらない完璧な奴隷になるまで犯しまくるって決めてるからあ」
33 ミツキ「ふああっ！ ああ、で、でも、こんなの続けられたら、頭、おかしくなって……ひ
34 ぎゅ！ あっ、ああああ！ しまうわ……少し、休ませ、へひゃああああ！」
35 真央「休むう？ 甘えたこと言わないでよ。アタシは別にそれでもいいし。理性ぶっ飛
36 んだなら、洗脳装置でもつけて思考を上書きすればいいだけだから」

1 真央「あっ！ むしろ、その方が洗脳楽かもお！ アタシってば、天才よねえ！」
2 ミツキ「そ、そんなあ!? あっ、んひゃ！ ひきゅうう！ らめええ、またきちやうう！ オ
3 マンコ、ズボズボされて、逆らえないろおお！」
4 ミツキ「あらまあ、真っ白になつれええ～～、イグウウ、まらあ、イグのおおおお！」
5 ミツキ「あひぎいい！ んっああああ！ や、やべでえええ、イッてるのとお！ 今、すご
6 いイッてるのとおお！」
7 ミツキ「イッてるのに、突かれたらああ、イグのおお、止まらなくなるう！ おぐう！ あ
8 びやああ！ んぎゅうううう！」
9 ミツキ「いやああああ！ イグううう！ イッてるのにいい、またイクううううう！」
10 ミツキ「おっああ！ や、やらああ、と、止まってええ！ イクのお、止まっへえええ！」
11 ミツキ「イキ続けるのとおお！ 辛いろとおお！ お、お願いじまずうう、真央ざまああ、
12 とめでえええ！ 休ませへええ、んんっああああ！ いぎゅううううう！」
13 真央「きやはははははは！ 鼻水垂らして泣き喚いて、完全に敗者の顔になったわね
14 え！ ねえ、ねえ、辛い？ 苦しい？ もうイキたくない？」
15 ミツキ「はいいい～～、辛いでずうう！ ぐるじいいでずうう～～！ んひやああ！ あ
16 うう、あぎいいい！ イクうう！ あああっ、あああああ！ まらあ、イクのおおお！」
17 真央「ふ～～ん、そうなんだあ。まあ、だからなに？ って感じだけお！」
18 ミツキ「へっ？ あっ、あああ、えっ？ ええっ？」
19 真央「アンタ、真央の奴隷でしょ？ なのに、アタシに意見するとか、調教が足りない
20 証拠よねえ」
21 真央「だ・か・ら～～、お仕置きねえ」
22 ミツキ「そ、そんなああ！ あひいく！ へびやあああ！ イクうう、イグううう！ これ、
23 以上らんれえ……お願いじまず、許ひへえええ！ 真央さまああ」
24 真央「はい、また意見したあ！ お仕置き決定え～～！ 子宮に催淫パルスの刑！」
25 ミツキ「んひいいい！ やべでえええ！ ぞ、それだけはあああ！ いやあああああ！ や
26 らあああ、ひっひやあ！ んぐおおああ！ ああああンンツツ！」
27 真央「きやははははは！ ぶっ壊れろとおお！ クソ雑魚淫乱雌豚あああ！」
28 ミツキ「——ツツツ！ アッ……へぎゅあああああああああああ！」
29 ミツキ「あぎゃあああああああああああ！ ほぎょおおおおおおお！ イグうう
30 う、イグイグイグイグ、イグううううううう！」
31 ミツキ「し、子宮、弾けりゅうううう！ オマンコ、焼げるうううう！ ひぎゅうううう！
32 あらまああ、弾げりゅううつつ！」
33 ミツキ「——ゴッ！ あっ……あああ……ツう……」
34 真央「う～ん？ あれ～～？ 泡吹いて動かなくなっちゃった。きやはっ、やり過ぎちゃ
35 った」
36 真央「まあ、死んではいないから、いつか」

- 1 真央「不屈の心を失ったアンタはもう立ち直れない。聖結晶姫ミツキは完全に終わった……くひっ……くひひっ……きゃはははははははははは！」
- 2